

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南信州山岳文化振興事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人南信州山岳文化伝統の会 飯田市南信濃木沢811旧木沢小学校
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,379,465 円 (うち支援金: 2,703,000 円)

事業内容

- ①聖岳、赤石岳に向かう登山道の整備
 - ・土砂崩落や倒木による通行困難な箇所、土砂の排除やチェーンソーでの倒木抜倒等で歩行しやすくする。
- ②個人テント泊ができるための備品整備とキャンプ場の設置
 - ・飯田市が南信森林管理署から借り受けた西沢渡の地籍の転貸借を受けレンタルテント・キャンプ場を設置し、張りっぱなしのテント等必要な備品類をそろえた。
- ③ファムトリップの実施
 - ・登山者に近い立場の関連事業者ツアープログラムを評価してもらうためのファムトリップを実施し、改善点等の指摘をいただいた。
- ④情報発信素材の作成とガイド養成
 - ・動画とパンフレットを作成した。インフルエンサーによる動画配信で効果的な発信を行った。



【YouTubeのスクリーンショット】
【目標・ねらい】

- ①安全な登山環境を作る。
- ②登山ハードルを下げ、多くの登山者を迎え入れる。
- ③登山関連事業者の力を借りて多くの登山者を迎え入れる。
- ④SNSを活用し多くの登山者に周知する。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・登山者数の増加をみた。
- ・登山ツアー会社のツアー企画が進んだ。
- ・地域の中で市民権を得ることができた。

事業効果

- ①登りやすくすることで登山者の疲労が減じ、周囲の光景を楽しみながら登山ができるようになった。
- ②これを利用することで聖岳、光岳への中間点に宿泊できるようになり、必ずしも健脚でなくとも登山できる山域となった。
- ③登山ツアー会社のツアー商品に加えることができるようになった。
- ④時代に合った方法で効果的な周知・宣伝ができるようになった。

今後の取り組み

3年目にして多くの登山者の訪問が見られようになった反面、課題が浮き彫りとなってきた。観光協会に働きかけ12月6日に設置した「遠山郷登山緊急対策検討会」で地域の関係者と検討してきた対応策を実行し、全国でも屈指の山岳高原観光地として発展できるような仕組みを地域の方々とともに築いていく。

- ①相次ぐ山岳遭難を受けた抜本的な解決に向けた対策
 - 芝沢ゲートに夏山相談所を置き、IT技術を活用したコンパス（登山届）、ココヘリ（遭難地点の特定）両社と提携した全国的にも先進的な遭難防止態勢を飯田市とともに築いていく。また、全山域の安全対策を講ずる。
- ②大幅な登山客の増加に伴う環境悪化（糞尿、手狭な駐車場）への対応
 - 4年度は芝沢ゲートに飯田市が簡易トイレを設置する。以降は携帯トイレ会社の協力で環境に負荷をかけないトイレを設置する。将来は遊休化している南信森林管理署梨元詰所を総合的なビジターセンターとして活用し、これをユネスコエコパークや日本ジオパークの拠点とすることも地域の方々とともに飯田市に働きかけていく。
- ③二次交通を活用した登山者の利便性の向上を図る対策
 - タクシー協会飯田・下伊那支部と協力し郡部のタクシー会社が連携し「定額観光タクシー料金制度」に基づく「国道152号線～登山口」間の二次交通態勢が整えられるよう支援していく。
- ④登山客の増加を地域活性化につなげる対策
 - ③に加え、地産地消のお土産の開発など支援していく。

特に山岳遭難防止は当会の持つ登山関係者ネットワークを活用すれば、全国で最も安全で満足度の高い山岳高原観光地域づくりが可能なので、今後も長野県の支援をいただきながら、全国モデルともなる取り組みを進めていきたい。